

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上、健康・体づくり、特別支援教育の充実、郷土愛の項目では、目標を達成しA評価となった。いずれの項目も、目標達成に向けた取り組みの成果があらわれた評価だった。 ・心の教育は、あいさつの項目がC評価だったが、それ以外の項目はA評価だった。次年度は、あいさつの推進に係る目標や取り組みの見直しが必要である。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進では、時間外勤務の月平均は目標を達成できているが、個人によっては時間外勤務が多い点が課題である。 ・郷土愛の項目では、児童が、基山のよさをより実感できる学習機会の充実等が必要である。
2 学校教育目標	<p>きたえ やりぬき まなびあう</p> <p>WAになって 活気ある学校を目指そう</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の考えを持ち、伝え合う児童の育成 ・進んであいさつができる児童の育成 ・基山のよさを実感できる学習機会の充実

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目								主な担当者		
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○一人一人が自分の考えを持ち、伝え合う児童の育成	○「学習課題等について自分の考えをもつことができた」、「グループや全体で自分の考えを伝えることができた」と答える児童85%以上	・校内研究で、国語科における単元全体を見通した授業づくりに取り組む	B	・児童アンケートより「自分の考えをもつことができた」86%「自分の考えを伝えることができた」81%であった。後期は研究授業を通して、伝える活動の充実を更に図っていきたい。	B	・児童アンケートより「自分の考えをもつことができた」90%「自分の考えを伝えることができた」78%であった。自分の考えをもつことができてはいるが、それを伝えることに課題が見られた。	B	・児童アンケート2項目の結果が、十分達成とやや不十分だったことから、おおむね達成でよい。「考えを伝える」という文言が児童にとっては発表のみと捉えていることもあるのではないかと課題は、次年度の校内研究を通して改善して欲しい。	・研究主任 ・学力向コーディネーター
	●心の教育	○「児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動」	○「友達と仲良くできている」「良いこと悪いことを考えながら生活している」と答える児童を85%以上	・ふれあい道徳をより充実させる ・道徳アンケートを実施する	A	・児童アンケートより「友達と仲良くできている」と答えた児童95%、「良いことと悪いことを考えながら生活している」と答えた児童89%であり、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートより「友達と仲良くできている」と答えた児童98%、「良いことと悪いことを考えながら生活している」と答えた児童93%であり、十分に目標達成できた。	A	
●心の教育	○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていてと答える保護者80%以上	・いじめアンケートにより、早期発見、早期対応に取り組む ・配慮を要する児童の情報共有と教育相談に係る研修会を実施する	A	・保護者アンケートより「学校は、いじめの防止等に組織的に対応していると思うか」についての肯定的回答は92%であり、目標を十分に達成できている。	A	・保護者アンケートより「学校は、いじめの防止等に組織的に対応していると思うか」についての肯定的回答は94%であり、目標を十分に達成できた。	A	・保護者アンケートの結果が、成果指標を大きく上回っているため、十分達成でよい。欲を言えば、次年度は「予防的、未然防止」の視点も入れてはどうか。	・生徒指導 ・教育相談
	○進んであいさつができる児童の育成	○「自分からあいさつができた」と答える児童80%以上	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童80%以上 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・授業や様々な体験活動において、振り返りを行い、自分のよさや成長を感じさせる	A	・児童アンケートより「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と答えた児童は89%、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童は84%であり、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートより「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と答えた児童は93%、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童は86%であり、十分に目標達成できた。	A	
●健康・体づくり	「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝」、「早起き」、「朝ご飯」の児童の定着率80%以上 ○「休み時間、元気に体を動かした」と答える児童80%以上	・年に2回「生活アンケート」を行うなど、自分の生活習慣を見直し、改善を促す学習活動を実施する ・保健だよりの発行で、規則正しい生活習慣の大切さを児童・家庭に伝える ・運動の効果や外遊びを奨励	C	・児童アンケートより「早寝早起きができている児童は78%、朝ご飯を食べて登校している児童は98%、休み時間に体を動かしている児童は75%であった。朝ご飯は目標を大きく達成したが、早寝早起きと体を動かすの2項目は目標を下回った。今回の結果を踏まえ、望ましい生活習慣の形成について働きかけを行ってきたい。	A	・児童アンケートより「早寝早起きができている児童は82%、朝ご飯を食べて登校している児童は96%、休み時間に体を動かしている児童は84%であった。「早寝早起き朝ごはん」の呼び掛けが浸透してきていることとともに、秋からは休み時間に外遊びができるようになったこともあり、全ての項目で目標を達成できた。	A	・児童アンケートの結果が、いずれも成果指標を上回っているため、十分達成でよい。一方で「休み時間、体を動かす」という項目は時期により熱中症対策で外遊びができないこともあるため、次年度の成果指標等については検討が必要ではないかと。	・養護教諭 ・食育 ・体育主任
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○業務効率化の推進と時間外勤務等時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外勤務の月平均を45時間以内にする	・通常18:15及び金曜日17:30の施設時間の徹底に努める ・定期的に衛生委員会を開き、課題の洗い出しとその解決に努める	A	・今年度4月から8月までの時間外勤務の月平均は23:15となり月平均45時間を大きく下回った。今後も、時間外勤務が長い職員と、業務の効率化等について協議するなど、時間外勤務の削減を進めていく。	A	・今年度4月から1月までの時間外勤務の月平均は26:24H、後期(1月まで)平均は25:58Hとなった。いずれも月平均45Hを大きく下回った。今後も、時間外勤務の削減に向けた取組を検討していく。	A	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○特別の配慮を要する児童の理解が深まり対応できることが増えたという教師90%以上	・特別の配慮が必要な児童について校内の共通理解を深める ・特別支援教育に係る研修会の実施	A	・職員アンケートより「研修等により特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対象児童に対応できることが増えた」と答えた教員は93%と十分に目標達成できている。	A	・職員アンケートより「研修等により特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対象児童に対応できることが増えた」と答えた教員は100%であり十分に目標達成できた。	A	・職員アンケートの結果が、成果指標を大きく上回っているため、十分達成でよい。次年度以降も継続的に専門的な研修を行い、特別な配慮を要する児童への対応をお願いしたい。	・特別支援コーディネーター

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者		
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○郷土愛	○ふるさとを愛する児童の育成	○基山町のよいと思うところはどんなところか(低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上)言える児童80%以上	・基山町のよさをアピールしたり、基山町のよさに気付く場を設定する等児童が基山のよさを実感できる学習機会の充実を図る	C	・児童アンケートより「基山町のよいと思うところ(12年1以上、34年3以上、56年5以上)が言える」と答えた児童は75%で目標に届かなかった。今後も故郷のよさを感じる取組の継続を図っていく。	A	・児童アンケートより「基山町のよいと思うところ(12年1以上、34年3以上、56年5以上)が言える」と答えた児童は80%で目標は達成できた。総合的な学習の時間などを通して、故郷のよさを感じる取組の成果と思われる。	A	・児童アンケートの結果が、成果指標をクリアしているため、十分達成でよい。郷土愛については1年で結果を出すことが難しい面もあることから次年度は重点取組内容や成果指標についても検討する必要があるのではないかと。例えば、地域との連携などとしてもよいのではないかと。	・生活、総合、社会 ・きやま学
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育										

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の評価が低かった項目も、中間評価をもとにした後期の取り組みにより成果があらわれるなど、項目全般において取り組みの成果があらわれた評価となったと考えている。 ・学力向上の項目の伝え合う児童の育成では、自分の考えをもつことは高まっているが、それを伝えることに、まだまだ課題がある。次年度も校内研究を中心とした取り組みを継続発展していきたい。 ・健康・体づくりでは、外遊びの奨励を掲げていたが、熱中症対策から外遊びができない時期があり、中間評価が低くなってしまったため、次年度は成果指標等についての検討が必要と思われる。 ・郷土愛については大切なことだが1年で結果を出すことは難しい等、学校運営協議会でも議論となった。次年度は重点取組や具体的内容について刷新する必要があると思われる。
----------------	---